

札幌くらぶ

Sakkyo Club

55



【編集・発行/札幌くらぶ】 064-0931 札幌市中央区中島公園1-15 札幌交響楽団事務局気付
メール: info@sakkyoclub.net
ホームページ: http://sakkyoclub.net/sakkyoclub/

2011.7

第540回札幌定期演奏会 練習見学会のご案内

札幌交響楽団では、シーズン2～3回定期演奏会の練習を公開しております。札幌くらぶもまたこれまで札幌の協力を得て独自で練習見学会を開催してきました。

今後、札幌くらぶの練習見学会は、札幌がキタラで練習公開するときに合わせて、札幌の協力により札幌会員と合同で練習見学会を開催することになりました。

その最初の練習見学会を、次のとおり開催しますのでご案内いたします。

日時/8月18日(木) 12時00分～13時00分

場所/キタラ大ホール

受付/午前11時から正面ロビーの札幌くらぶ会員受付まで

◆第540回定期演奏会

A日程 8月19日午後7時開演

B日程 8月20日午後3時開演

指揮/高関 健(札幌正指揮者)

ピアノ/小川典子

ブリテン/シンフォニア・ダ・レクエム op.20

プロコフィエフ/ピアノ協奏曲第3番ハ長調 op.26

ブラームス/交響曲第2番ニ長調 op.73

練習見学会は、「ブラームス/交響曲第2番ニ長調 op.73」となりますので、リストは入りません。

1時間の練習見学会後、15分程度の指揮者トークコーナーを予定しています。

練習見学会参加ご希望の会員は、8月15日(月)必着で、

郵便(封書、はがき何れでも可)

〒064-0912 札幌市中央区南12条西9-1-901

札幌くらぶ事務局 武藤 宛

メール (info@sakkyoclub.net)

FAX (011-563-6460)

の何れかの方法でお申し込みください。

(事務局長 武藤 義典)

第9回札幌くらぶコンサート開催シリーズ(第4回) 札幌くらぶ会員皆さんへチケット販売にさらなるご協力を!

第9回目になる札幌くらぶコンサートは、平成23年11月5日(土)に開催することが決定し、指揮は我らのマエストロ尾高さんにお願いしました。くらぶでは、札幌くらぶコンサート検討会議から答申を得て、札幌くらぶコンサート実行委員会を正式に発足させ、具体的な開催内容や会員の皆さんと

もにどのように進めていくか議論をしてまいりました。会員に皆さんへの報告として、会報に開催シリーズを掲載し検討内容を報告しています。第1回は、札幌と遊ぶう・感動を子供達とともに題して、札幌くらぶコンサートの開催意義について(第52号)、第2回は、札幌と遊ぶうのプログラムについて(第53号)報告しました。第3回は札幌くらぶ会員皆さんにご協力していただくことについて(第54号)、第4回の今回はコン

サートチケットのさらなる販売運動をお願いさせていただきます。今年5月に札幌くらぶ会員限定でチケット販売を開始し、6月末現在で会員向け販売状況は、1,700枚の目標に対して、400枚程度と会員の皆さんの申し込みが停滞しております。札幌くらぶコンサートは、札幌ファンづくりや初めての方に札幌を知っていただく絶好の機会と考

えております。今回は札幌定期演奏会では実現していないコンサートマスター伊藤亮太郎さんをソリストに迎える「メンデルスゾーン/ヴァイオリン協奏曲」が演奏されます。札幌くらぶならではのプログラムとなっております。

ぜひ、ご家族はもとより、友人知人へそしてご近所の方々へ札幌を広めていただきたいと思います。そして札幌の演奏をこころゆくまで堪能していただきたいと思っております。

7月10日には、プレイガイドをはじめとした一般販売【一般価格3,000円】が開始されますが、会員の皆さんが札幌くらぶ事務局を通じてチケットを購入される場合と会員の皆さんの紹介によるチケット販売につきましては【会員価格2,500円】としております。

また、前回の会報でもお知らせした札幌の音楽に関係している中学生を200名の招待で、さらに札幌ファンづくりや外国人留学生を招待して札幌のまぢや、キタラホールそして札幌交響楽団を海外に知らせてほしいと願って、招待のほうも札幌市国際部の協力や吹奏楽連盟や合唱連盟等々にコンタクトをしており順調に進めております。

今後の活動として、スタッフによる販売活動をはじめ、札幌くらぶ

ホームページによる申込ページ開設をはじめ、定期演奏会以外の札幌演奏会にはチラシ折込と札幌くらぶデスクを設け、チケット販売をサポートしていきます。PMFと協力しチラシを入れさせていただくことなど展開することとしました。ぜひ、札幌くらぶ会員の皆さんにはこの趣旨をご理解の上、満席を目指して札幌くらぶコンサート成功に向け一層のご尽力をお願いいたします。

副委員長 西川 吉武

「札幌くらぶ会員皆さんに、チケットあと2枚を周囲の方へ紹介して欲しい」

札幌くらぶコンサート2011のチケット販売を通じて札幌ファンの輪をもっと広げて欲しいと願っています。さらには、札幌くらぶ会員の拡大や、札幌定期会員拡大、札幌を支える個人パトローネージュ会員拡大へ結んで欲しいと願っています。

「札幌くらぶコンサート」への申込方法は! ホームページ(HP)からも出来ます! 「第9回札幌くらぶコンサート」札幌と遊ぶう! HPも是非ご覧ください。URLは、<http://sakkyoclub.net/concert/>

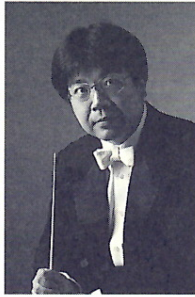
演奏会を楽しく聴くために

八木 幸 二 (札幌くらぶ会員)

第540回札幌定期演奏会

8月19日(金) A日程
8月20日(土) B日程
指揮/高岡 健(正指揮者)
ピアノ/小川 典子

ブリテン/シンフォニア・ダ・レ
クイエム op.20
プロコフィエフ/ピアノ協奏曲第
3番ハ長調 op.26
ブラームス/交響曲第2番ニ長調
op.73



高岡 健 ©SATO Masahide



小川典子 ©S.Mitsuta

ブリテン/
シンフォニア・ダ・レクイエム op.20
戦前、日本政府は「紀元2600年」の奉祝管弦楽作品をブリテ

ンに委嘱した。それが、「シンフォニア・ダ・レクイエム」である。しかし、当時の政府は「めでたきミカドの祝典に鎮魂交響曲とは何事ぞ!」と激怒し演奏を拒否した。戦後、ブリテンが来日した際、彼は指揮者として何くわぬ顔でこの曲を本邦初演している。「永遠の安息」と名付けられた第3楽章は、木管の美しい音色ではじめられる旋律が徐々に高揚し総奏による敬虔な祈りは、きっと先の東日本大震災で亡くなられた多くの御霊にも届くことであろう。

プロコフィエフ/ ピアノ協奏曲第3番ハ長調 op.26

プロコフィエフは1918年に日本を經由アメリカにわたり、さらにパリでも西洋のモダニズムの音楽に接している。しかし、自分の作品には現代音楽的な前衛技法を取り入れようとはせず、前衛的ではない祖国の聴衆に向けての作品を多く作曲した。「ピアノ協奏曲第3番」は、アメリカに活動の場を定めたころに書かれている。プロコフィエフは、5曲のピアノ協奏曲を書いたが、第3番は特に有名で「新古典主義」の傾向があ

り土俗的なロシアの国民性も内包している。また、日本に滞在した経験からか第3楽章では、長唄「越後獅子」の旋律がモチーフとしてあらわれるのも興味深い。明治時代からの西洋作曲家が日本をテーマにしたピアノ作品集をCDに収めている小川典子が、どんなピアノリズムを聴かせてくれるのか大いに楽しみである。

ブラームス/ 交響曲第2番ニ長調 op.73

ブラームスの交響曲第1番と第2番は、対をなしているといわれている。彼は長い苦悩の中でつくった第1番の完成直後、第2番をわずか4ヶ月で書き上げている。驚異的な速さで書き上げられたひとつの理由として、音楽の発想や着想が第1番の作曲中にすでにあり、第1番で収納できなかったものを直ちに第2番として展開したからなのかもしれない。1877年の夏、ブラームスは、はじめて訪れたベルチャッハ(オーストリアにある有名な保養地)でこの曲を作曲している。アルプス山麓のヴェルター湖を眺望できるこの地は、ブラームスにとって桃源郷の

ような地であつたらしく、ハンスリックに宛てた手紙には「ここでは旋律がこんなに沢山生まれてくるので、散歩の時、それを踏みつぶさないように気をつけたいといけない」とまで書いている。牧歌的な美しい旋律が何の誇張もなく展開され、職人技ともいえる作曲技法とのびのびとしたオーケストレーションによるブラームスの魅力が堪能できるだろう。

第541回札幌定期演奏会

「ベートーヴェン・ツィクルス」
9月9日(金) A日程
9月10日(土) B日程
指揮/尾高 忠明(音楽監督)

ベートーヴェン/
交響曲第1番ハ長調 op.21
交響曲第7番イ長調 op.92



尾高忠明 ©Martin Richardson

2002年におこなわれた尾高忠明によるベートーヴェン・ツィクルスは、第1番から順番に演奏されていったが、今回は組み合わせが工夫され、その第1弾は第1番と第7番。
交響曲第1番ハ長調 op.21

ベートーヴェンは、交響曲第1番を作曲する前にピアノソナタや室内楽さらに協奏曲などで多くの革新的な工夫を試みた。その集大成としての交響曲は、第1番から第8番までが彼の30歳代から40歳代前半の脂ののりきった10数年の間につくられている。交響曲第1番から、練達した作曲技法がみられ、第1楽章冒頭は、それまでの他の作曲家にはなかった凝った和音進行がほどこされ、この「迷い道くねくね」からたどり着いた第1主題は実に明快で開放的だ。その澁刺とした楽想は、当時彼が思いを寄せていた「不滅の恋人」ヨゼフィーネへの心の高鳴りが聞こえてくるかのようだ。

交響曲第7番イ長調 op.92

「のだめ」効果で聴く機会の多い第7番も特徴的な弦楽のリズムが、躍動的な楽想を生んでいる。ベートーヴェンは、かつて無いほどリズムについて楽譜に細かな指示を書き込み、テヌートとスタッカートの違いを強調させている。第1楽章などは、ひとつのリズム形で押し通すという斬新さだ。この曲は、そう言った面で舞曲性が強く、後にワーグナーが「舞踏の神格化」といったことは有名だ。札幌交響楽部の峻烈なボーイングが聴けるかも知れない。さらに第2楽章に象徴されるカンタービレな主題が、この作品に劇的な効果を

生んでいる。昨年のPMFにおけるファビオ・ルイジの演奏が印象に残るが、尾高カンタービレの期待も大きい。

森の響フレンドコンサート

札幌名曲シリーズ
ラプソディー・イン・ヨーロッパ
10月15日(土)
指揮/ラドミル・エリシユカ
(首席客演指揮者)

ドヴォルジャーク/
スラヴ狂詩曲第3番
チャイコフスキー/
イタリア奇想曲
エネスコ/
ルーマニア狂詩曲第1番
シヤプリエ/スペイン狂詩曲
リスト/ハンガリー狂詩曲第2番



ラドミル・エリシユカ ©SATO Masahide

狂詩曲など耳に馴染みやすい管弦楽曲が5曲並べられた「名曲シリーズ」は、今や全国的にも注目の札幌首席客演指揮者ラドミル・エリシユカが登場。
ドヴォルジャーク/
スラヴ狂詩曲第3番
ドボルジャークの音楽は当時、

ハプスブルク帝国の一部となっていたチェコの中で、ハイドン、モーツァルト、シューベルトといったオーストリア音楽の延長線上にあることは確かだが、西スラブ民族としてのチェコ人の感情から生まれる傑作が多い。民謡風な旋律と民俗舞曲の特色を持った

「スラヴ狂詩曲」もまさにそれらの代表的作品で3曲書かれたが、その第3番が特に有名になった。ラファエロ派の狩猟の情景を思わせる美しい色彩感があり、ハープの独奏からはじまり舞曲的な盛り上がりを見せる。ドボルジャーク協会会長を務めるエリシユカがスラヴ音楽の真骨頂を伝えてくれることだろう。

チャイコフスキー／イタリヤ奇想曲

数ヶ月で結婚生活が破局したチャイコフスキーは、モスクワ川に身を投じるほど意気消沈していた時期に、気晴らしのため弟のアナトリーとイタリヤ旅行にでかける。

イタリヤの温かではがらかな風土に癒され、その印象から「イタリヤ奇想曲」が生まれた。

奇想曲とはカプリッチョとも呼ばれ、あまり形式に縛られない自由な音楽を意味する。

エネスコ／ルーマニア狂詩曲第1番

エネスコは、モルダヴィア生まれで、ヴァイオリンをウィーンで学び、さらに13歳でパリ音楽院に入学しフォーレなどに作曲を学んだ。彼の代表作である「ルーマニア狂詩曲第1番」は、フランスの近代作曲手法にルーマニアの国民的要素が結びあつて独特の作風をつくりあげている。

シャブリエが狂詩曲「スペイン」を作曲したころ、フランスを中心にビゼーの「カルメン」をはじめスペインブームがわきおこりラロやアルベニス、さらにその後ラヴェル、フアリアなどが「スペイン」と名の付く作品をつくっている。シャブリエのこの曲も変リズムを用いてスペインの幻想が、絢爛たるオーケストレーションで描かれている。

シャブリエ／スペイン狂詩曲

比較的演奏機会の少ない第8番交響曲第3番変ホ長調 Op.93「英雄」は、全交響曲の中で最も規模の小さい作品ながら全体的に均整が取れ、唯一メヌエット楽章を置く古典的な性格の強い作品だ。この作品は、緩徐楽章がなく全体的に明るく快活で演奏時間も短いため一気に聴けてしまう。第2楽章は、メトロノームの発案者のためにつくられた「メルツェルのカノン」が転用されベートーヴェンのチャイミンングな側面がうかがえる。

リスト／ハンガリー狂詩曲第2番

リストは、ショパン、シューマン、ブラームスをしてワグナーなど当時の名だたる音楽家と深い関わりを持ち、彼らの管弦楽作品をピアノ版に編曲するなど、ロマン派音楽における重要な位置にあった。彼は、ピアノの名手であり多くのピアノ作品を残しているが、「ハンガリー狂詩曲」は20曲にのぼる作品集。その中から6曲を選び管弦楽化され、その第2番は同曲の代表作。どの曲も前半はゆつたりと重々しく、後半は急速で情熱的なジプシー音楽のチャル

ベートーヴェン／交響曲第8番へ長調 Op.93

対する第3番は、規模が非常に大きく古典派の概念を越える進歩

交響曲第3番変ホ長調 Op.93「英雄」

対する第3番は、規模が非常に大きく古典派の概念を越える進歩

第542回 札幌定期演奏会

「ベートーヴェン・ツィクルス2」

10月28日(金) A日程
10月29日(土) B日程

指揮／尾高 忠明(音楽監督)

ベートーヴェン

交響曲第8番へ長調 Op.93

交響曲第3番変ホ長調 Op.93「英雄」

ベートーヴェン・ツィクルスの

第2弾は、第8番と第3番のカッ

プリング。

交響曲第8番へ長調 Op.93

比較的演奏機会の少ない第8番は、全交響曲の中で最も規模の小さい作品ながら全体的に均整が取れ、唯一メヌエット楽章を置く古典的な性格の強い作品だ。この作品は、緩徐楽章がなく全体的に明るく快活で演奏時間も短いため一気に聴けてしまう。第2楽章は、メトロノームの発案者のためにつくられた「メルツェルのカノン」が転用されベートーヴェンのチャイミンングな側面がうかがえる。

さらに第3楽章は、青年期のヨゼフィーネへの思いとは違つ、「不滅の愛人」と呼ばれるベッティナへの大人の恋心を感じられる優雅な楽想だ。

交響曲第3番変ホ長調 Op.93「英雄」

対する第3番は、規模が非常に大きく古典派の概念を越える進歩

的で劇的な作品。ベートーヴェンに悲劇が訪れ、「ハイリゲンシュタットの遺書」が書かれた時期に作曲されたこの作品は、ナポレオンへの献呈を前提としてつくられ極めて精神性の強い作品となった。それは、第1楽章冒頭でいきなり2つの主和音

が鳴らされたり、第2楽章で葬送行進曲が配られ終楽章には、自作「プロメテウスの創造物」の主題が変奏されるなどベートーヴェンの強い意志が込められている。この作品によって交響曲というジャンルは、娯楽的な音楽から作曲家としての評価をも判断するよう

札幌くらぶの公式ホームページをリニューアルしました

2003年9月に公開された札幌くらぶのホームページ(H P)が2度目のリニューアルをしました。HPは年々搭載内容が豊富になり、ページ構成が対応しきれなくなり、前回のリニューアルから10年となったのと独自ドメイン・レンタルサーバを取得したのを機に、2010年2月からページ構成を見直し、データの移転作業を行いました。

6月にある程度閲覧が可能になったことから新HPに切り替えました。新HPは、まだデータを完全に移転し終わっていませんが、今後もデータ移転作業を続けてまいります。

新HPのページ構成は、HOME「札幌くらぶとは?」「コンEは「お知らせ」「Topic「サート情報」で、リンクは「札幌

芸術的主柱となつていった。10年前の尾高ベートーヴェンツィクルスでは、弦の硬質な響きと管楽器の柔らかな響きの対称が印象に残る第3番が聴かれたが、この春ヨーロッパ公演を経験した札幌からどんな色彩の響きが放たれるのか大いに楽しみである。

くらぶコンサート」「交流会」「練習見学会」「楽譜支援」「入会案内」「会報」「札幌くらぶ」「くらぶの歩み」「リンク」「お問い合わせ」「更新記録」「会則」「役員・事務局スタッフ」「総会・会議」「サイトマップ」「個人情報取り扱い」「JOFCC」「おしゃべりROOM」で構成されています。皆さん是非訪問してみてください。そしてご意見、ご提案などをお寄せください。

次号からは、各ページの解説を載せていこうと思っております。(武藤)

6/27日から公開した札幌くらぶホームページリニューアル版のトップページ (HOME)

札幌ミラノ公演に参加して

上田 文雄

「札幌50周年ヨーロッパ公演」に行きたい、転職をした職場環境は、プライベートな海外旅行には適さない雰囲気がある。道新はわざわざ「この時期市民から批判がでるか？」と書いてくれた。それでも周辺の方々の理解と協力を得て何とか参加できた。札幌の応援団長を自称する私にとって、この上ない幸せで豊かな時間をもつことができた。

私はイタリア・ミラノでの演奏会に参加した。強行日程の札幌、ミラノは4公演目。団員は相当疲れているのではと心配だったが、豊かで充実した、本当に素晴らしい演奏を聴けた。ホールはドル・ベルメ劇場、1200席ほどのホールだったが観客の入りは残念ながら350人ほど。在ミラノ日本総領事がコンサート冒頭に挨拶されたが、どうやら札幌の実力をあまりご存知なかったのか、広報へのご協力を十分得られなかったのではないかと。

しかし、入りが少ない分、アットホームな雰囲気演奏会とはなかった。楽員の演奏態度は素晴らしく、その集中力は音の豊かさに転じ、視覚にも十分に反映された。ホルンの響きはギターと比較するべくもないけれど、アコースティックな札幌サウンドを体験することができた。

「悲愴」弦の美しさはもとより木管の繊細さ金管の重厚さ打楽器の的確さ、マエストロ尾高への絶大な信頼と一体感あふれる演奏に、聴衆は完全に魅了された。感動と絶賛の拍手の後にマエストロ尾高が選んだアンコール曲は、エルガーの「ニムロッド」。大震災で奪われた2万余名の命を思いながら、同行した妻と共に落涙をこらえることができなかった。有り難う札幌。本当に行けてよかった。

札幌ミラノ公演を聴いて

「札幌は、札幌で聴けるんじゃない？」：職場のとある大先輩のお言葉です。

たしかにそうかもしれません。札幌定期会員である私です。傍から見られる方は、わざわざヨーロッパに行くって札幌を聴くの意味があるのかと思われに違いないことでしょう。

きたように思う。諏訪内さんのヴァイオリンはその華麗な弓裁きと豊かな表現力に魅了された。演奏直後に楽屋を訪ねた。キラキラ光る目が印象的で、この演奏が彼女にとっても満足のなものであったことを表していた、そう思った。

「悲愴」弦の美しさはもとより木管の繊細さ金管の重厚さ打楽器の的確さ、マエストロ尾高への絶大な信頼と一体感あふれる演奏に、聴衆は完全に魅了された。感動と絶賛の拍手の後にマエストロ尾高が選んだアンコール曲は、エルガーの「ニムロッド」。大震災で奪われた2万余名の命を思いながら、同行した妻と共に落涙をこらえることができなかった。有り難う札幌。本当に行けてよかった。

できる木管群、力強く鳴り響く金管・打楽器群、そして、諏訪内晶子さんのヴァイオリン……それらが一つのまとまった響きとなりながら同時にそのどれもをはつきりと感じることが出来る演奏でした。すばらしかった!!

ところで、私が某大学で受講をした応用音楽学理論によると、ヨーロッパに移動しての演奏という、いわば、特に空間移動をともなった事象は、楽曲そのものに少なからぬ影響を与えるものということになりました。それは要するに、札幌コンサートホールキタラを本拠地とする札幌が、短時間とはいえ時間経過をともない、ミラノテアトロ・ダル・ヴェルメへ空間移動をした結果、携えた楽曲に對しそれが大きな変化をもたらすこととなったのです。これを音楽の場合、脈絡変換、トランスコンテクスチュアリゼイションと呼称するのですが、私はこの事象をまさしく目の当たりにした訳です。元のかたち「オリジナル」は、脈絡変換を経て変化「チェンジ」し、そして転位「トランスポジション」するということであり、特に今回これほどの空間移動を経た音楽を間近に聴くことができ、これは私にとって非常に興味深いものでした。

実は今回の旅行、私たち夫婦の新婚旅行であったのですが、札幌の素晴らしい演奏を聴くことができ、また札幌を応援する多くの方々との出会いや、お話を色々聞かせていただき、より思い出深いものとなりました。その中で特に、イタリア・ヴェローナにおいての会食の際、私たち夫婦のために札幌くらぶ会長である上田札

札幌50周年 欧州公演鑑賞ツアーに参加して

札幌50周年欧州公演（ミュンヘン・ロンドン）に北海道新聞社が主催するツアーに参加した。3月11日以降、海外では東日本大震災に対する日本の注目度は高い。私の家内の姉と妹が宮城県と福島県で被災している。そのような状況下で、今回は札幌サウンドを2大都市で確かめることと、是非現地で募金箱を持ち義援金をあつめたいと願ってツアーに参加した。

この二つの都市ミュンヘンとロンドンには北海道の風土と酷似している。ポプラは真っすぐ空に向かい、アカシヤやライラックは甘い香りを漂わせ咲き誇っていた。その情景を眺めるとき、札幌とこの二つの都市に精神的国民的風土や音楽性に共通点も数多くあるのではないかと思い旅を続けた。

ミュンヘンのガスクイック文化センターでは、在住の日本人の方たちが震災被災者のための



ドイツ/ノイシュヴァンシュタイン城

（渡邊 啓久）



イギリス/ストーンヘンジと筆者

できなかった。やむなく日本円札を募金箱に入れ「これで自分も募金活動をしたのだ」と自分に言いかけた。

ガスタイク会場でのチャイコフスキーの『悲愴』の演奏は、途中での3楽章終了後に大きな拍手があったことは驚きであった。この曲の持つ悲愴(悲しくいたましいしいこと)の映像が日本でテレビ等で放映されたシーンを何度も思い出し、楽器の一つひとつの音に耳を傾けた。スクンディングオペーイションでの熱気のごときは日本では経験できないと感じた。

ロイヤル・フェステバルホールでの『ブルッフのヴァイオリン協奏曲第一番』と『ショスタコーヴィチ交響曲第五番』は圧巻であった。諏訪内さんのブルッフは旅行中持参したCDの名盤(ルド

た。その後更にホール中央の一人が立ち上がり、その数は人のうねりとなって増し続けていった。立ったまま同行していた隣席の二人と「サッキョウハ、サイコウダ！」と叫びながら握手をして成功を確認した。観客がホールを出るとき私はステージ中央前かけより、オーボエ奏者岩崎昌弘さんと硬い握手をした。憧れのホールでの至福の出来事であった。

「ハウ・スロー・ザ・ウインド」はミュンヘン・ロンドンの2つの都市で演奏された。私は武満徹の作品は今までに「ブヴェンヴァー・ステプス」の1曲をCDで聴くだけであったので、異国のホールで日本の(東洋的)な生のサウンドを外国の方たちと一緒に耳にしたのは意義深いことであった。演奏中はなぜか「風雨水土

ルフケンベ指揮・ロイヤルフィルハーモニックオーケストラ・チョンキョンファ)と比較するとよりメリハリがあった。交響曲第5番の4楽章は、フィナーレのティンパニーの連打は、ブラームス交響曲第1番のプロローグを2・3回聴いた感があった。この曲が終るかいなやスタンディングし「ブラボー」と2度連呼した自分に気が付いた。その後更にホール中央の一人が立ち上がり、その数は人のうねりとなって増し続けていった。立ったまま同行していた隣席の二人と「サッキョウハ、サイコウダ！」と叫びながら握手をして成功を確認した。観客がホールを出るとき私はステージ中央前かけより、オーボエ奏者岩崎昌弘さんと硬い握手をした。憧れのホールでの至福の出来事であった。

「ハウ・スロー・ザ・ウインド」はミュンヘン・ロンドンの2つの都市で演奏された。私は武満徹の作品は今までに「ブヴェンヴァー・ステプス」の1曲をCDで聴くだけであったので、異国のホールで日本の(東洋的)な生のサウンドを外国の方たちと一緒に耳にしたのは意義深いことであった。演奏中はなぜか「風雨水土

馬」のシーンを好んで築影した黒澤明の作品を起想してこの曲を鑑賞していた。特に「影武者」の作品のシーンが音と重なって脳裏をかすめていった。

特筆すべき点は指揮者の尾高さんが、アンコール曲に『ニムロッド』を演奏したことである。この曲を演奏するにあたり東日本大震災の現状と悲惨さを説明された。ご冥福を祈ることと援助の大切さをメッセージとして2大都市で発したことは極めて重要なことであり、演奏会の意義を更に一層深めることとなった。

帰札した札響は6月4日(土)キタラで「帰国記念演奏会」を開催した。ヨーロッパで演奏してきた4曲(アンコール曲含む)は本当にすばらしい曲に仕上がっていた。音は以前より更に協調性を増し、メリハリがはつきりし生きいきとして自信に満ちていた。また「キタラ」の建物の構造的な素晴らしさも改めて再確認できた。

「ブラボー」・「ブラバー」の声も何の迷いやためらいもなく大きくはりあげることができた。

札響には札響にしか出せない音があると思う。ウイーンフィルやベルリンフィルには出せない音があると思う。北海道の自然や精神的国民的風土で培われた音こそこれらの誇りの音である。(山上)

札響50周年記念 欧州公演をかいま見て

ブラボー！と怒涛のように押し寄せる叫び声とともに全員総立ちとなった聴衆の鳴り止まぬ拍手。思わず背筋がゾクゾクとして大声を出してしまいたい衝動に駆られたほど、ミュンヘン・ガスタイク大ホールは熱気に満ち溢れていた。5月22日札響欧州公演の初日である。初々しい、そして清々しい集中力と熱気のもった演奏につき動かされたように何の抵抗もなく立ち上がって手をたたいていた。人々の姿は実に感動的であった。前夜、オーストリーにスケッチ旅行中の札響創設時から30年余り事務局にいらした渡辺さんとロッシーニの「アルジェのイタリア人」を観て、その雑然たる騒々しさの喜劇に辟易したこともあつた。か、札響の演奏の素晴らしさに身の引き締まる思いであった。終了後、尾高さんの流暢なドイツ語の挨拶に感激。尾高さんはそのまま

コンサートマスターの大平まゆみさんとパーティに出席され、皆の注文に応じて撮影に納まったりしていた。翌日、素晴らしいスタートを切った札響に誇らしい思いでロンドンへと飛び立った。

1975年、札響が初めてミュンヘンのヘラクレスザールで演奏していたころ、旧西ベルリンでカライアン指揮するベルリンフィルを聴き、ポストン交響楽団在籍中の小澤征二氏の指揮ぶりを見ていた。札響訪独を耳にしたのは既に帰国した後のことであった。

2001年、英国公演の折は、9・11事件がありツアーは中止、しかし会員の長屋さんと二人でバーミンガム、ロンドンと追っかけを横行。あれから10年、そのとき御一緒した三浦さん(現在ケンブリッジ大学留学)に再会、ロンドンフェスティバルホールでも演奏を聴くことができる幸福を味わった。

札響はミュンヘンを早朝発ち、その夜の演奏にもかかわらず、コンサートマ



会場前で
ガスタイク会
と筆者
ヘン/ガスタ
渡辺さん(左)

スタターの伊藤亮太郎さんは、ステージいっぱいにおうら放つている諏訪内さんに優るとも劣らぬ響きで聴衆をうならせ、まさにこれが札響の音と思わせるものであった。鳴り響く拍手、スクンディングオペーイション。尾高さんの英語の挨拶。日本の大震災に寄せられた思いに感謝と決意を述べられたとき、思わず言葉に詰まった姿を見た聴衆は、同じ思いが溢れ、胸の熱くなるのをこらえきれずに涙する人、演奏の素晴らしさといまって感動が会場全体を渦巻いているように思えた。終了後、英国人に日本の皇太子もロイヤルウエディングに出席したら世界の人々の日本に寄せられる思いに挨拶できたのに残念！尾高は素晴らし！といわれて、札響が3・11後に欧州公演を敢行したのは本当によかったと確信した。

24時間滞在したロンドンを後にナポリに向かう。海峡を越え雪を頂くアルプスを越え、美しい海が見えるとそこはイタリア。麗しきナポリから特急で35分余サレルノ到着。イタリア人の親切さに大いに甘え海岸線沿いのホテルに到着。世界遺産のアマルフィ海岸の拠点となる町は中世の面影を残す迷路の坂道と美しい海。夕方ドームよりホテルへ向う途中フアゴット副首席奏者の村上さんと会う。会場の下見という。すぐゲネプロも始



サレルノ／ヴェルディ劇場のポスター前で西村専務(右)と筆者



サレルノ／演奏会終了後の尾高夫妻

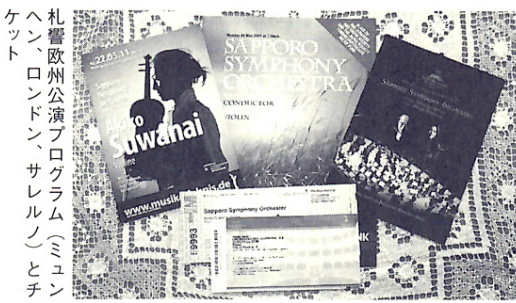
さわしい風格があり思わぬ握手。これが最後の欧州旅行と思つて参りました、と話す声は凜として札幌ファンの鏡とも思えた。札幌ツアーの方々のほかにローマからいらした方、ウイーンからいらした方もいて心強く思えた。ステージは少し狭く感じ、でも熱のこもった演奏で、ミュンヘン、ロンドンでは紺色のドレス着用の諏訪内さんが真紅のドレスで登場。中世風の装飾の多い会場に負けない充実感のある演奏で会場全体を揺るがすような音で圧巻であった。鳴り止まぬ拍手。コンサートマスターの三上亮さんの上気した顔がまぶしく思えた。

後、イタリア語で何か叫びながら沢山の人々に握手を求められた。札幌に対する親しみを込めてのこゝと理解し、一生のうちでこんなに多くの人と握手したことはなかったと新しい体験に驚いたりもした。

翌日、札幌楽団員は指揮者、ソリストと全員が4台のバスに乗ってミラノを発つた。朝食を持って早朝の出発である。毎日飛行機移動の公演は始めてです、と尾高さんはいながら疲れも見せずにさわやかに笑顔でバスに乗り込んでいきました。残す2公演の成功を祈りながらサレルノからナポリ、ミュンヘンと飛んで素晴らしい札幌の演奏を反芻しながら帰国の途について。(鈴木美保)

まる。パーカッション奏者の真貝さんとコントラバス奏者の鈴木さんも美しい黄昏の並木道で会う。演奏は午後9時。強行軍。演奏旅行はこんなものですよとさわやかに笑う。

夕食後、着替えてヴェルディ劇場に向かう。古いオペラ劇場は満員である。尾高夫人と札幌一団に同行の医師と隣席する。夫人からご夫妻のウイーン留学時代のお話が伺えて嬉しくなる。そして古くから札幌会員でこよなくクラシック音楽を愛する真柳さんとお会いできたのは実に嬉しく、80歳をとうに超えているとは思えぬ風爽と背筋を伸ばしスーツを着込んで玄関に立つ姿はヴェルディ劇場にふ



札幌交響楽団公演プログラム(ミュンヘン、ロンドン、サレルノ)とチケット

札幌交響楽団50周年記念 ヨーロッパ公演帰国記念演奏会

行きたかったが仕事の関係と資金面で泣く泣く断念したヨーロッパ公演。ヨーロッパにいけないけれど帰国記念公演のプログラムはヨーロッパ公演と同じだから、なんちゃってヨーロッパを味わえるだろう、との思いでチケットを購入。余談であるが、今回のヴァイオリニスト、諏訪内晶子さんについてウチの父親が何度も諏訪内晶子ってのはな、神尾真由子の大先輩なんだぞ。最年少でチャイコフスキー国際コンクール優勝だからな、すごいんだぞ。世界の諏訪内なんだぞ。でも予算がないから行けないな」と言うのである。暗に行きたいと言われているような気がしたのと、父の日に何をプレゼントしたらよいか困っていたところだったのでブレイガイドを3ヶ所まわり、S席の中で父親が好みそうな席を入手してプレゼントした。父親が喜んだのは言うまでもない。

物を与えずというが、二物どころの話ではない。三物も四物も与えているではないか。まあそれはさておき、諏訪内さんの演奏である。あのスラリとした体からは想像もできないような情熱的な音。ソリストのスペースを最大限に使用して全身を使って産み出される音。大きく、小さく、決して出しゃばらず、かといって、引っ込みすぎず。札幌と見事に融合した見事な演奏。まさに「協奏曲」、協力して、曲を演奏する。そのものである。演奏終了後は万雷の拍手。アンコール曲も演奏してくださった(こだけ丁寧語。あ

は9割程度、といったところ。みんな期待にあふれた表情をしていた。前日の北海道新聞夕刊2面を使用したという記事が出ていたのだから、好演を期待するなという方が無理である。

開演して札幌の皆さんがステージに出てきた。表情は晴れやかで、ヨーロッパ公演をやりきった達成感と自信に満ち溢れているように感じられた。



ヨーロッパ公演帰国記念演奏会／札幌とソリスト(6/4キタラ、写真：野口隆史)

の見事な演奏は使用楽器（ストラディヴァリウス「ドルフィン」）のせいだけではない。

3曲目、チャイコフスキー交響曲第6番「悲愴」。

ここでまた「あれ？」である。2曲目でも感じていた事ではあるのだが…。3曲目の間中演奏を聴きながらひたすら考え中…。考えていると第3楽章が終わった途端見事な演奏に感動した人が数人いたらしく、拍手が起きていた。尾高さんは何事もなかったかのように第4楽章を振りはじめた。そこで「あれ？」の理由がひらめいた。ヨーロッパ公演を経て札幌のサウンドに風格のようなものが備わっていたのである。堂々としているといふか、なんとというか…。

例によってボキャ貧のため上手く表現できないのだが、自信に満ち溢れているという表現が適切だろうか？

最後に尾高さんがマイクを持って登場し、話をしたあとにアンコールでエルガーのエンゲラ変奏曲からニムロッドを演奏した。尾高さんが「人が亡くなったときに演奏される事が多い曲」と話していたが、大震災で亡くなった方々の魂が天に昇っていくような気になった。今後も被災地の方々のために、自分でできることをしていかなければと思った。

なんだかしんみりしてしまっただが、帰国記念演奏会の次週が定期演奏会。これからの札幌の演奏会がとても楽しみである。（華）

ニムロッド

突然、私は慟哭し、そして大粒の涙がこぼれてしまった。涙で視界が利かなくなり、嗚咽を抑えるために袖をかんだ。

言葉が、頭を通さず、直接心に響いた。

そうだったのか、帰国演奏会の終わりに聴かされた、曲に込められた想い。震災後、演奏会の度に札幌が捧げた祈り、欧州公演のう一つの意味、欧州に届けよう

したメッセージ。感動で胸が熱くなる演奏会は何度もあったが、初めてだった。デスクの片付けを手伝ったところ、偶然、諏訪内さんにお疲れさまでした」とお礼を述べる機会に恵まれた。美しく、そして可憐な笑顔。

本当に音楽はすばらしい。今日の日は、生涯忘れないだろう。（橋詰）

6月定期演奏会の感想

約40年ぶりに秋山和慶さんの元氣なお姿を拝見しました。私は「札幌首席指揮者」時代の秋山さんを知りません。桐朋学園大学を卒業して間も無く颯爽と東京交響楽団にデビューした時を思い出します。判り易く端正な指揮とまるで王子様のような甘いマスクは直ぐに評判となり、東響の定期会員（特に女性会員）を一挙に増やしたことは有名な話です。当時は日本フィルの小澤征爾と人気を二分した事も懐かしい思い出です。

後半の「ローマ3部作」は演奏（特に金管）も指揮も体力がいる曲ですが、見事な出来栄でした。特に大勢のエキストラが加わった大曲をまとめ上げる手腕はベテランの域に入った秋山さんの実力が遺憾無く発揮されたのではないのでしょうか。終演後の万雷の拍手が何よりもそれを物語っています。

そして演奏後の団員の方たちの満ち足りた表情も印象的でした。前半に演奏したシヨスタコーヴィチの「ピアノ協奏曲1番」は何度聴いても良い曲ですね。ピアノ独奏の小曽根 真さんには独特のリズム感があり、いつも感心させられます。トランペットの福田さんと掛け合いは素晴らしく特に2日目は互いに火花が散ったよ

うな演奏でした。まさしく真剣勝負を挑んだ形で「ジャズメン・小曽根」の面目躍如の思いです。ただ一つ残念だったのは、ソリストのセルゲイ・ナカリヤコフの来日中止によりアーバンの「ヴェニスの謝肉祭」が演奏中止となりました。この曲はトランペットを吹く全ての学生が憧れる曲です。今回のような非常事態な時こそ札幌の実力を天下に示す絶好のチャンスでした。福田さんが2曲吹くのが大変なら副主席の松田さんがいます。是非とも挑戦して欲しかったので私はとても残念です。この曲を楽しみにチケットを購入した中学生・高校生もいた筈です。彼らの心情を思うと何とも遣り切れない複雑な気持ちになりました。

それとプログラムに「曲目・出演者を一部変更させて」とありますが、曲目については変更でなく【中止】或いは【削除】とすべきではないでしょうか。聴衆に甘えてはいけません。プログラムには正確に、そして正直に記載すべきです。最後に何時も笑顔を決してさす優しく温厚な人柄の西村専務理事、本当にお世話になりました。（恵庭市 連栄）

3月11日（金）に発生した三陸沖を震源とする東北地方太平洋沖地震により被災された仙台フィルハーモニー管弦楽団（仙台フィル）及び仙台フィルハーモニークラブ（SPC）に対して、札幌くらぶは、どのような支援ができるか検討していましたが、3月30日札幌交響楽団（札幌）から仙台フィルの直接支援について、札幌で仙台フィル支援に特定した義援金募集を行うこととした、については札幌くらぶと一緒にできないか、との申し出があり、これまでの検討結果と合せて検討し、札幌くらぶとして札幌と同一歩調で仙台フィルを直接支援することに決定しました。

4月6日、JOFCCの決定を受けて、かねてより準備をしていた「被災地の仙台フィルハーモニー管弦楽団の皆さんに、いま、私たちができること。」と題した文書を同日、札幌くらぶ会員へ送付し、義援金募集への協力を呼びかけました。

義援金は、4月末で一旦締め切り、5月6日札幌と札幌くらぶの連名で札幌くらぶから482,000円、札幌と合わせて1,133,470円を仙台フィルへ札幌から直接送金していただきました。

札幌くらぶは引き続き会員からの義援金を受け付け、6月末で締め切り、7月7日それまでお寄せいただいた70,000円を仙台フィルに贈りました。義援金は、92名の会員から総額552,000円寄せられました。会員の皆様、仙台フィル支援の寄付、本当にありがとうございます。

震災以降拠点がなかった仙台フィルが、在仙演奏家たちと7月2日仙台市青少年文化センターで共演し、コンサートホール復活演奏会が開催されました。

今月から定期演奏会も再開され、待望の音楽が宮城の人々の心を癒してくれる事でしょう。頑張ろう宮城&仙台フィル！（事務局長 武藤義典）

仙台フィル支援義援金、92名の会員の善意が552,000円

仙台フィル支援義援金、92名の会員の善意が552,000円

仙台フィル支援義援金、92名の会員の善意が552,000円

仙台フィル支援義援金、92名の会員の善意が552,000円

仙台フィル支援義援金、92名の会員の善意が552,000円

アフィニス・アンサンブル・セレクションNo.144 札幌交響楽団のメンバーによる「カメラータ札幌」

2011.3.2(水) 東京港区JTAアートホール アフィニスにて公演

昨年9月札幌キララホールでデビューした「カメラータ札幌」の東京での初お披露目とあって、仙台から高速バスで6時間かけて聴きに行きました。JTBの2Fにあるこのホールは256席でこじんまりしていますが、ホワイトオークと照明が大変美しいホールです。前日の札幌交響楽団東京公演はサントリーホールでしたが、500mと離れていない近さにあります。

席に着きプログラムを目を通すと、プログラムノットはピオラの小峰さんの曲解説であり、内容も曲想が膨らむ読み応えのあるもので感心しました。

満員盛況の中、前半はベートーヴェン／七重奏曲変ホ長調 Op.20 (約45分)、後半はラインベルガー／九重奏曲変ホ長調 Op.139 (約33分)が演奏されました。札幌でのデビュー曲と同じですが、前後半曲を入れ替え、楽器配列も変えていました。

大森潤子さん、武田芽衣さん、夏山朋子さんの女性3人はそれぞれロイヤルブルー、菖蒲色、オレンジレッドの艶やかなドレスで、男性は黒の燕尾服で登場。ベートーヴェンの七重奏曲は6

楽章からなり聴き所満載の曲ですが、第1楽章はいつも堂々として大森さんのヴァイオリンソナタが珍しく緊張しているのか、演奏が硬い印象を持ちました。

しかし、2楽章以降、クラリネットの三瓶さんとホルンの橋本さんを始め、各奏者の魅力が気持ちよくシンフォニックに表現され、終楽章ではヴァイオリンのカデンツァが展開され、明るく堂々と終えた様に大満足でもあり、ホッともしました。

一転してというか岩崎さんと高橋さんが加わったラインベルガー／九重奏曲は、重厚な響きとは裏腹にとっても軽やかに心地良く、楽しく感じてしまう演奏でした。

楽器配列は札幌の時は前列が弦で後列が木管で、右手より高音から低音楽器に並んでいました。今回は1列の大きな扇状として、右手よりバイオリン大森さん、ピオラ、チェロ、コントラバス、ホルン橋本さんを要に、ファゴット、クラリネット、オーボエ、フルート高橋さんと並び、大森さんと高橋さんは向き合う形であり、時にはこやかにメンバー同士のアイコンタクトが出来るのも良い結果を生んだのではないかと思います。また配列

のバランスでは4人の弦楽器が一見すると縦1列で重なって見えるので、それぞれの音色がしっかり響き重厚さが増幅していたし、管楽器の響きも豊かな感触で、気品がありました。

盛大な拍手の中、大森さんが代表して感謝の辞を述べました。札幌の素晴らしい演奏を聴いてくださったという言葉は誇らしく、やり切ったという充実感も伝わって、多くの方に演奏の感動が届いたと思います。

アンコール曲はシューバ／九重奏曲へ長調 Op.2で、大森さんのヴァイオリンを筆頭に全員の実力の高さがいかんなく発揮され、心地良く聴けました。

9人のメンバーの表情は晴れやかで、札幌メンバーを応援するた

め東京に来た甲斐がありました。客席には著名な評論家の方が多数いたようで、圧倒的な存在感と質の高い演奏に感嘆したと信じます。お世辞ではなく、札幌はオーケストラとしても個々の実力を見ても世界に通用する水準にあると改めて思いました。盛大な拍手と満足気な客席でのどよめきからもその印象は間違いないと確信できま

た。

終演後はJTBビル1Fのレストラン「イプリミ」で、打ち上げパーティーに参加させていただきました。

前日はサントリーホールでの東京公演でもあり、練習が大変な中素晴らしい演奏会で、本当にお疲れ様でした。カメラータ札幌の9名と、札幌ステージマネージャーの田中さん、クラリネット三瓶さんの奥様、トリオレイラメンバーでもありいつも客演でお馴染みのバイオリン鎌田さん、アフィニス財団より3名の方と楽しく素敵なお時間を過ごせ、心もお腹も充実しました。皆さん有難うございました。また、言いそびれましたが札幌市民芸術大賞受賞おめでとうございます！

次回の公演を期待したく活動計画を尋ねたところまだ構想中の事。絶対聴きに行き、応援したいので早めに告知をお願い出来ればな、と思います。(深井雅昭)



イプリミでの打ち上げパーティー、右手前が筆者

札幌くらぶ創立15周年記念事業

札幌くらぶシンボルマーク図案募集

札幌くらぶ創立15周年の記念事業として、シンボルマークを制定することに先の総会で承認されました。

シンボルマークは、札幌くらぶのあらゆる広報に使用し、札幌くらぶを強く印象づける役割を担います。

シンボルマーク制定にあたって、その図案を会員から募集し、11月5日の札幌くらぶコンサートで発表する予定です。札幌くらぶを強く印象付ける図案を9月末までにお送りください。

図案には、作図方法、色指定など複製に必要なデータも付けて、郵送又はメールで会員番号、氏名、住所、電話番号を明記して応募ください。匿名やペンネームでの応募はお受けできません。

ご応募いただいた図案等は採否にかかわらずお返しすることができませんのでご了承ください。

採用いたしました図案及び作図方法、色指定などのデータの著作権等一切の権利は札幌くらぶに無償で提供するものとなります。

会員の応募がないとき、又は採用する図案がなかったときは、一般(会員を含む)への公募に切り替えて再募集いたします。

図案の送付先は次のとおりです。

郵送 〒064-1093-1

札幌市中央区中島公園1-15

札幌交響楽団事務局内

札幌くらぶ事務局 宛

メール info@sakkyoclub.net

第536回定期演奏会の練習見学会に参加して

札響くらぶ会員限定で、2月24日（木）午前10時45分から午後1時まで練習見学会が企画されました。今までも何度か企画され、昨年11月にはゲネプロ見学会も実施されていますが、本番の演奏会とは異なる雰囲気と新たな発見など、とつても面白く楽しめます。

10時にスタッフは受付に集合し、10時半開場に控え控え室に見学来場者を誘導。

そんな中、次々と楽員の皆さんも受け前を通り楽屋入り。尾高音楽監督はマイカーを運転して到着。

今回は30名が参加し、いつもの通り指定されたCBブロック席に座りました。

私服姿の楽員の皆さんがステージ上に着席し、尾高音楽監督が登場すると練習の始まりですが、今日は特別にセレモニーがありました。

毎年「札響くらぶ」は会員の方からお預かりした楽譜支援金を札響に50万円寄付しています。6回目となった今年は、会長代行の副会長鈴木美保さんから札響専務理事の西村善信氏に目録贈呈式が行われ、楽員の皆様から感謝の暖か

い拍手をいただきました。（この模様は北海道新聞平成22年3月2日夕刊に紹介されました）札響くらぶHPにも掲載

そしてTシャツ姿の尾高音楽監督の登場。指揮台上上がるやいなや演奏開始。

今月の演奏曲は、東京公演と50周年のヨーロッパ公演でも演奏する入魂の曲なので大注目。

シヨスタコービッチの交響曲第5番と武満徹の「ハウ・スロー・ザ・ウインド」が入念に細かく指示が与えられ手直していく様は興味津々。客席からステージは肉声では少々遠いので、真剣に耳を傾けないと言葉を聞き漏らしてしま

うのですが、意図を知った上で細かい小節単位で演奏を聴くと、それはそれで完成された独立した曲のように。本番の演奏が素晴らしい事を大いに予感させ、期待が限りなく膨らんでいきます。

そして定期でもお気付きになったと思いますが、コンサートマスターが3人共乗り番として登場しており、まさに最強の布陣を敷いたオーケストラ編成からも、普段と明らかに異なる意気込みが伝わってきました。

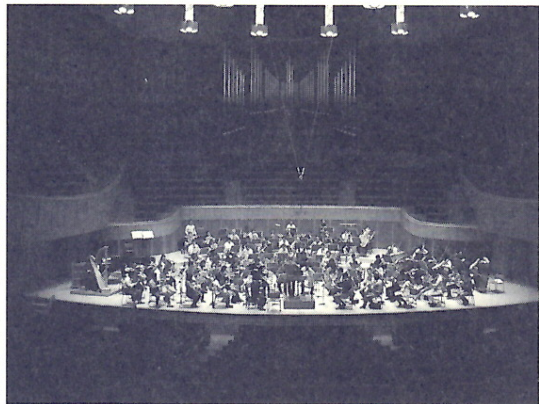
30人の見学者ですからホール内は静寂そのもので、特に弦楽器のしなやかな響きは美しく、ホールを包み込む札響の音には強い意志が込められていました。

いつも思うのですが3日の練習と本番前のゲネプロを経て本番となる演奏会。いくらプロとは言え、矢継ぎ早の指示に的確にすばやく答えていく様に感嘆しきりです。

個人練習も相当行って練習に臨んでいる事はこれで容易に想像がつきます。

練習見学会とは言葉、真剣な場面の中で途中休憩以外の出入りは禁止ですし、私語や雑音は慎む必要があります。しかし、ステージ上では時には冗談を言ったり、ハミングしながらニュアンスを伝えたり、アットホームな雰囲気でもあり、通し演奏だと気付きにくい個々のパート演奏もクローズアップされる場面もあり、実に楽しくリラックスして聴けるのでクラシックに詳しくない方もお勧めし

ます。それと今回の注目は今月（2月）で定年退団される打楽器奏者の真貝裕司さん。38年の札響人生を華々しく卒業するに相応しい、シンバルの大熱演が本番でも目に浮かびます。ヨーロッパ公演も帯同されるので札響ファンとしては喜ばしく心強いです。



第536回定期演奏会のキタラでの練習

ます。

それと今回の注目は今月（2月）で定年退団される打楽器奏者の真貝裕司さん。38年の札響人生を華々しく卒業するに相応しい、シンバルの大熱演が本番でも目に浮かびます。ヨーロッパ公演も帯同されるので札響ファンとしては喜ばしく心強いです。

楽員の皆さんは昼食となり、午後の練習が続くのですが、練習見学会は午後1時には終了となりました。もつと聴いていたいとの気持ちを持ち、明日後日の演奏会を楽しみに思いながらホールを後に散会しました。

23年度定期演奏会ではゲネプロを含め、見学会を数回を予定していますので、多くの方の参加をお待ちしております。（深井雅昭）

「札響メンバー有志と仲間たちによる」

「東日本大震災チャリティコンサート」を聴いて

4月14日・15日 カムオンホール

チャリティコンサートのお知らせを見たのは、大震災から1週間後の定期のキタラ会場。こんなにもすばやくコンサートを企画するなんて…と、その行動力にまず驚いた。それに答えるべく、私も迷わずすぐチケットを予約した。だって、札響の素晴らしいメンバーが揃っているのだから。

会場のカムオンホールは、定員90席で小さいけれどカラフルで温かい雰囲気ホール。せっかくなので、最前列を確保。手を伸ばせば、演奏者に触れそうなくらいに近い。まるで誰かの家に招かれていような、サロンコンサートといった趣。

進行役の前川さんのトランペットでスタートしたコンサートは、ヴァラエティに富んでいて期待以上の素晴らしさのものだった。岩佐さんのホルンや三瓶さんのクラリネットのソロは、今まで自分から選んで聴くことはなかったので、何か得した気分。温かい音色が心に沁みだ。「情熱大陸」は、生で聴くのは初めてだったので大感激！三原さん熱演でした。

嬉しかったのが、前川さんのトランペットで演奏されたカッチーニの「アヴェ・マリア」。昨年、合唱で初挑戦し歌ったばかりだったから。合唱もいけれど、トランペットで演奏される「アヴェ・マリア」も、とても素敵だった。前川さんが「大好きな曲で、僕のCDの最後に入っています」とおっしゃったので、早速帰りにCDを購入。

最後に登場したのは、チェロの石川さん。曲目はヒナステラの「パンペアーナ第2番」

「この間のチェロコンクールで聴いておもしろい曲だなと思ったので」選んだとのこと。惚れ込んだ（？）曲だけあって、石川さんにぴったりのラテン系の情熱的な曲だった。ドラマティックなメロディも素敵だったが、それに目の前で演奏する石川さんの、指が弦を押さえる音や弓がしなる音、息遣いと額の汗も加わり、ダイナミックでコンサートの最後にふさわしい演奏だった。是非もう一度聴きたい！

最後は全員で「見上げてごらん夜の星を」を歌ってお開きとなった。

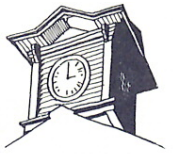
演奏会を企画してくださった皆さんと参加した私たちの思いが、東北にまで届きますように…。

（み）

札幌物語 54

北電ファミリーコンサート「7」

竹津 宜 男 (札幌くらぶ会員)



1978年4月21日第66回北電ファミリーコンサートの登場した指揮者はベテラン大町陽一郎だった。大町は札幌とは既に75年厚生年金コンサート(構成年金会館の主催事業のコンサート)、75年第158回定期演奏会で指揮をしてそれぞれ定評のあるドイツ浪漫派の音楽、モーツァルト、ベートーベン、ブラームスのプログラムで評判を取っていた。

札幌の第2定期と言われる「北電ファミリーコンサート」で最近のコンサートのプログラムは定期演奏に匹敵するほどの堂々たる内容のものが多く、当時はファミリーコンサートらしく第一部はヨハン・シュトラウス作曲のポルカやワルツ、第二部はベートーベン作曲の「コリオラン」序曲と交響曲第7番のプログラムだった。

ベートーベンの交響曲のなかでも第5番「運命」と「のためカンタービレ」のテーマミュージックにもなった第7番は日本人には特別好まれるようだ。

以前から「北電ファミリーコンサート」の入場整理券は早く手に入れないと入手難な時代が長く続いている。大町陽一郎指揮のコンサート聴きたいと地方の知り合いに頼まれHBCの窓口へ行ったら「もう配り過ぎたのでこれ以上出せません」と断られてしまった。

当時47歳、ウィーンでカラヤンやカール・ベームの教えを受けた話題の指揮者、大町陽一郎と札幌の演奏だけに満員の聴衆は大満足で興奮気味に会場を後にした。会場に入れなくて聴けなかった人達から「入場料を取ればあんなに券が手に入らないことはなかったろうに」と恨み言を言われた。大町陽一郎はこの2年後にウィーン国立劇場にデビューして話題になったほどウィーンの味を出したヨハン・シュトラウスだった。

同じ80年の12月には人口12、000人の十勝清水町でのペーターベン「第九交響曲」を指揮して成功させ世界の話題になった。清水町の「第九」はHBC TV番組でドキュメンタリーが収録され日本国内だけでなくアメリカのABC放送を通じて全米に45分間放送された。翌年東京で開催された宗教団体の世界大会のために来日したアメリカ人牧師から「清水町はどこにあるのか、どうやって行ったら良いのか、アメリカで放送になったのを見たのだが日本へ来たので行ってみたい」と事務局へ問い合わせがあった。この「第九」公演はさらに波及効果を生み、道内では「第九サミット」と言う演奏会が続くことになるし、スイスでも同様なコンサートが行われて大町さんは指揮をしに行ったそうだ。

余談だが、毎年9月から10月にかけて15公演ほど日本で行っているオーストリアのバーデン市立劇場来日公演の総合プロデューサー杉本長史は札幌の創立当時のホルン奏者だった。杉本は札幌を止めてウィーン・アカデミーへ留学したが、ウィーン・アカデミーでの「ウィーン学」講座では大町と机を並べていたそうだ。バーデン市立劇場は今年「カルメン」公演をする。最近「京都学」など各地の学問が流行っているが「札幌学」もあつていいかなと思われている。

後年、故岩城宏之が述懐していたが1歳年上の大町のウィーン留学からの帰国公演を故若杉弘と一緒に「こんな大物が帰国したら自分達の出番が無くなるのでは」と恐る恐る聴きに行ったそうだ。

我が家には何故か蓄音器があった。両親のどちらのものかは今は知ることはできないが、上の蓋を上げて淵に手をかけて回っているレコードを覗いている2歳ころの写真がある。どれほどの枚数があったか覚えていないが、字が読めるようになったころの記憶で、ワルツ水彩画、田園、未完成等は見えている。

当時のレコードは78回転と速いので、シンフォニーは短い曲でも表裏にやつと入るくらいで、長い曲は2枚目にまたいでの録音ということになったのである。僕が初めてLP盤を買ったのは昭和44年1月2日であった。まだCDは無くステレオ方式の録音技術が急速に発達して、各レコード会社が競って自社の音質の良さをPRし合っていた。

何故か知らないが、当時でも聴く機会が多くなかったはずのムソルグスキの「禿山の一夜」に頭の中を占領されてしまい、この曲が入ったレコードを何軒も探して回った。そして手にしたのが「フォンタナ・コンサート・ギヤラ」という盤で、アンタール・ドラティ指揮、ロンドン交響楽団の1枚であった。「フィンガルの洞窟」の踊り・剣の舞が入っていて何回聴いたことだろう。レコード会社と異なると、序曲や行進曲など短い曲が入った盤を買っていくと

同じ曲がダブることになる事は予想していたが、何枚目かに「禿山の一夜」がダブった。もちろん指揮者も楽団も違ったが、同じオタマジヤクシが同じ順序で並んでいるのだから大して変わらないと思っていた。しかし、オドロいたオーバーな表現だが、これが同じ曲??? とわが耳を疑った。テンポ・アクセント・間のとり方が違つと、これ程にも異なるものになるのかと、それまでの自分がいかに漫然と「音」だけを聴いていたのか……と思いついた出来事だった。(案山子)

クラシック音楽との出会い



会報54号に投稿して下さったK・Mさん、私も数年前からのA・B会員です。コンサートで2日続けて同じ曲を聴くことは私の定年後の夢でした。1日目は1階席、2日目は2階席で聴いています。K・Mさんが述べていますように確かに2日目の方が余裕を持って聴けるように思います。特に初めて聴く曲や珍しい曲は事前にCDで聴くようにしているのですが、それでも1日目は緊張します。(実はこれも楽しみなのです) ソリストも様々で1日目はアンコールなしで2日目はアンコールに応じる方がいればその逆の方も

W会員

います。(自分の演奏に不満な時はアンコールに応じない?) また、アンコールに同じ曲を演奏なさる方と別の曲を演奏する方もいるので毎回興味津々です。

なお、札幌からA・B会員へのサービスとして定期演奏会・名曲シリーズ・コバケン・年末の第九などの中から「ペアチケツト」が戴けます。私にとってA・B会員は長い間働いてきた自分自身への少し贅沢な褒美と考えています。

A・B会員のネーミングが「W会員」とは面白いですね。果たして何人いらっしゃるのか存じませんが、年齢差もあることでしょうか、確かに情報交換できる機会があれば良いですね。その時を楽しみにしています。(南幌町 芽論)

同じ曲がダブることになる事は予想していたが、何枚目かに「禿山の一夜」がダブった。もちろん指揮者も楽団も違つたが、同じオタマジヤクシが同じ順序で並んでいるのだから大して変わらないと思っていた。しかし、オドロいたオーバーな表現だが、これが同じ曲??? とわが耳を疑った。テンポ・アクセント・間のとり方が違つと、これ程にも異なるものになるのかと、それまでの自分がいかに漫然と「音」だけを聴いていたのか……と思いついた出来事だった。(案山子)

札幌シンフォニック・ブラス2011

札幌シンフォニック・ブラス。元吹奏楽部（といっても銀賞常連校）として気になってはいたがなかなか休みがとれず、聴きにいけなかったコンサート。今回やっと休みが取れたので晴れて聴きに行く事ができた。

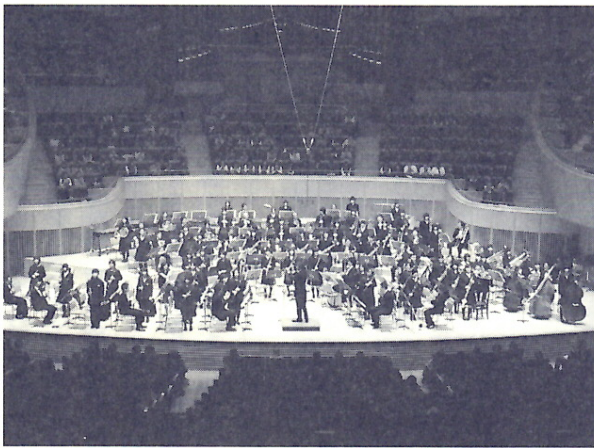
コンサートは2部構成で、第1部は札幌ブラス部門と客演奏者による全日本吹奏楽コンクール課題曲を演奏した後、市内の清田中学校、札幌北中学校、白石中学校の3校の吹奏楽部員と合同演奏。第2部は吹奏楽でよく演奏される曲を札幌が演奏するというものだった。

自由席でチケットを購入し、かつキタラに飛び込んだのがざりざりだったので案内されたのはP席。指揮者の顔と楽団員のみさんの後頭部を見ながらの鑑賞となった。客席を見渡すと制服を着た学生らしき人と、（おそらく合同演奏する中学生の）両親や親戚と思しき方々と私のような吹奏楽好きといった客層であった。

それはさておき、第1部、ブラス演奏のだから当たり前なのだが、弦楽器がない。いや、コントラバスはあるのでバイオリンやヴィオラの皆さんがいらないことに

戸惑ってしまった。クラリネットが最前列、その後ろがフルートである。私が戸惑って頭の整理をつける前に演奏が始まり、札幌のみなさんは全日本吹奏楽コンクールの課題曲を涼しい表情で（といっても頭しかみえないので想像できないのだが）演奏している。合同演奏の準備中に指揮者の梅田さんが話していたが、練習時間は2日間だったそうである。うーん、さすが札幌である。

さて、いよいよ中学生との合同演奏である。舞台上であわただしく準備が進められているなか、札幌の方2名に続いて中学生2名、指導した先生のインタビュがあつた。中学生2名はキララの上でも臆することなく話していた。最近の若い人はしつかりしているなあ、と感心してしまつた。



中学生と札幌交響楽団メンバーの合同演奏（写真提供：札幌交響楽団）

20分の休憩の後、第2部である。定期演奏会ではあまり聴けない曲を聴き、「他の演奏会にも行きたいなあ」としみじみと思つた。10歳から親に連れられてほくでんファミリーコンサートをよく聞きに行っていたが、ラヴェルのポレロを札幌が演奏したのを聴いた記憶は、私にはない。もししたら演奏していたのかもしれないが、アンコールはエルガーの行進曲第1番、威風堂々である。中学生がステージに入場して来た。チューニングをしていなかったため、コンサートマスターの三上さんが合図をしていた。最初は札幌が演奏し、中学生は最後の方と一緒に演奏していた。さすがに椅子を置く時間はなかったらしく、

立っていた。曲を聴きながら中学生が立っていたら指揮が見えないんじゃないかなあ、トロンボーンのスライドがチューバの人に当たるとんじやないかなあ、大ホールのステージってこうしてみると狭い

札幌交響楽団コンサートマスター 三上亮氏による ヴァイオリンコンサート

三上さんのコンサート。私は開催される事を全く知らなかった。たまたまうちの父親が行ったりサイタルのプログラムにヤマハ弦楽器フェアのフライヤー（チラシ）がはさまっていたのをうちの母親

が見つけ、教えてくれたのだ。偶然な時にこんな素晴らしいことを届けてくれるようである。三上さんファンの友達を誘ってノボテル札幌でランチをした後、ヤマハ1Fロビーへと向かった。13:30開催の10分前くらいに到着したが、それほど混雑している様子はない。三上さんはステージでヴァイオリンケースを片手に持ち、ヤマハの方と打ち合わせをしていた。正装の三上さんも素敵だが、スーツ（ノータイである）姿の三上さんも素敵である。胸ポケットには紫色のチーフ！ おお英国紳士！と思いつつ3列目の真ん中に友達と陣取り、開演を待った。

なあ、などと色々考えていた。帰りはあちこちで同じ学校と思われる人たちが集まっており、「解散！」「お疲れさまでした」と挨拶をしている声が開けた。今日このシンフォニック・ブラス

その後人が入り、席が埋まり始めた。どうやらないタイミンで私と友達が入場できたようである。開演前にはほぼ満席となった。曲目は、

エルガー／愛の挨拶
エルガー／気まぐれ女
バッハ／無伴奏パルティータから3曲
アタロン／ヘブライのメロディ

だった。



写真提供／ヤマハ弦楽器コーナー 佐々木さん

を聴いた学生みんなが将来札幌の定期会員になってくれること、札幌からぶの会員になってくれることを願いながら家路についた。（華）

間近で聴くヴァイオリンはやはり良いなと改めて実感である。弦と弓がこするあの音が私は好きなのである。自分は弦楽器を弾けないのでこういう機会でもないと思える。自分には残念だといつも思う。今回のコンサートは曲の間に三上さんのMCが入るのだが、楽しい事をたくさん話してくださって会場は終始和やかムードであった。

最後の曲を演奏し終わった後に「パニックについてピアノの方を紹介するのを忘れていました」と言っていてピアノの方を紹介していた。普段の演奏会では見られない三上さんの一面を見た気がして得した気分であった。

最後に三上さんのCDツイガターの宣伝をし、「サインもしますサインなんかいららないよ、という方はCDだけ買ってください」とちよつと自虐気味。サインなんかいららないという人はいるはずもなく、私はサインのみならず握手をしていただくという幸運をしっかりと手中に収めた。なんと図々しい。 （華）

札響元専務理事 西村さん 7年間ご苦勞様でした

平成16年6月札幌交響楽団専務理事にご就任以来、札幌交響楽団が大きく変わる仕事を進めてきた7年間だったと思います。定期演奏会の二公演化の実現、英国公演以来4年ぶりに平成17年韓国での海外公演、平成21年道内で初めての公益財団法人に移行、そして平成23年ヨーロッパ公演と名実ともに札幌交響楽団を国内のトップクラスにした立役者でした。私たち札幌くらぶも、札幌くらぶコンサート、楽譜支援などたくさんの方の支援を戴きました。今回退任されることをお聴きし

て、7月2日スタッフを中心にレストラン・ネージュを貸切りで激励会を開催しました。札幌くらぶからは花束贈呈と参会者一同から記念品を贈りました。札幌くらぶを代表して、一番お世話になった武藤事務局長からお礼の言葉に続き、上田会長から7年間ご苦勞様でしたと乾杯で宴会が始まり、西村さんからお礼の言葉のあと、参会者全員から思い出や激励の言葉があり、記念品には、マリンプルーに輝く万年筆を贈り、札幌くらぶ会報への投稿を依頼し笑いの渦でした。その中で上田会



記念品のマリンプルーの万年筆を披露する西村さん

長からは札幌くらぶ会員への入会案内をしました。本当に楽しいひと時を過ごしました。札幌元専務理事西村さん、7年間ご苦勞様でした。今後のご健康とご活躍を札幌くらぶ一同願っております。
(札幌くらぶ副会長 西川)

伊藤亮太郎さんのCDが出ました

ピリッキョーのテーブルに待ちに待った伊藤亮太郎コンマスのCDを見つけた。

『チャルダッシュ 伊藤亮太郎／ヴァイオリン名曲集』

ろくに曲名も見ず即座に買って帰り、封を切るのもどかしくプレイヤーに置く。

流れてきた音に部屋の中が一瞬美しく輝いた。

エルガー／「愛の挨拶」

シモネッティ／「マドリガル」
グラナドス／「スペイン舞曲」
(編曲クライスラー)

フォーレ／「夢のあとに」
ドヴォルザーク／「四つのロマンス」

ティツクナ小品作品75より第1曲
ブラームス／「ハンガリア舞曲第2番二短調(編曲ヨアヒム)」

幼い頃、子守歌のように聴き慣れていた曲がこんなに優美だった

とは…。

どの曲も肌に馴染んだ絹のような心地良さ。

うっとり聴いていたら、突然心の奥にたたみこんでいたものをいきなりバツと広げられたような衝撃を受けた。

フランクの「ヴァイオリン・ソナタ」が…

遙かむかし、月賦でステレオ・プレイヤーを買った私はボーナスを貰うとレコードを買いに行くのが楽しみだった。(昭和30年代)

テレオもLPレコードも高い物だった、団塊の世代以上の方は良

森の響フレンドコンサート
名曲シリーズ

『タンゲルウツドの思い出』

私のオーケストラ初体験は、青年・小澤征爾が指揮する日本フィルでした。会場は落成して間もない日生ホール(東京・日比谷)です。当時高校生だった私たちは帰りの電車に乗っても興奮して頭の

くわかるでしょう?)

ある誕生日に高校時代の同級生が、「一番美しいヴァイオリン・ソナタだよ」と真紅の薔薇を添えてレコードをくれた。

「ヴァイオリン・ソナタ イ長調」セザール・フランク作曲アイザック・スターンの演奏で。

あれから幾星霜レコードより先に命が磨り減って…、以来一度も聴くことが無かった曲がいきなり私の耳にあまりにも美しく甦った。苦しいまでに美しく胸を締め付ける調べ。

中で先程の音楽が鳴り響き、互いに一言も口を利かなかった事を覚えていきます。レコードとの一番の違いは弦楽器の音でした。絹のような艶のある音色にうっとり聴き惚れました。

曲が変わり息が楽になった。

クライスラー／「ペートルヴェンの主題によるロンディーノ」
モンティ／「チャルダッシュ」
マスネ／「タイスの瞑想曲」

心が安らぎ我に還り「素晴らしき」の一語に尽きる。

これは最上級のダイヤモンドのようです、美しい音楽の結晶です。手回しの蓄音機にSPレコードを乗せ針をそと置いた子供の頃をせつなく思い出す。

狭い庭につぼみの薔薇が揺れる。クリスタルのグラスに「BOW MORE」を注ぎ優雅なひとときをもう一度。

11月に「札幌くらぶコンサート」で伊藤亮太郎さんのメンコンが聴けるのです、嬉しくて楽しみに待ち遠しくて夢みたい。

札幌人である幸せに感謝する。
(響)

共演した渡辺裕子さん◎Yuko Ho. それ以来「タンゲルウツド」と聞くと直ぐに小澤征爾の事を反射的に思い浮かべます。勿論実際には行った事もなく、本とテレビ映像からの印象だけなのですが憧れは増すばかりです。



サイトウキネンを始めとする小澤征爾の後継者に私はバインスタイン・小澤征爾の流れを汲む高岡健さんに期待しています。そのコンサートですが正直に申し上げます。前半は不覚にもウトウトしてしまいました。音楽が心地よかったのか昼間の疲れが出たのか判然としませんが、何と勿体無い事をしてしまいました。

しかし、後半の2曲(キャンディード序曲・シンフォニックダンス)は20世紀を代表する曲としてバインスタインの名と共に歴史に残る名曲で、まさしく現代に生きる私たちにピッタリの曲です。

札幌と高岡さんの相性も良いようで大熱演でした。アンコール曲も最適でしたし団員の方々と私たちが聴衆との気持ちが繋がった印象を持ちました。帰途の地下鉄で久しぶり振りに頭の中でキャンディードが

鳴り響きました。
(賛輪温)



スタッフの活動報告 (平成23年4月～6月)

●23年度総会議案等発送作業

4月6日(水) 14:00～15:30
エルプラザ4F男女共同参画研
究室1番

担当/武藤事務局長(8名)

23年度総会案内、会報号外(コン
サートニュースNo2)、仙台ワイ
ル支援義援金募集案内の印刷、発
送作業を行う。

●第1回札幌くらぶ運営会議

4月11日(月) 18:00～20:30
札幌コンサートホール1階第2
会議室

担当/武藤事務局長(12名)

総会のスケジュール、議案、担当
分担等について協議、会長に対す
る議案説明は21日に調整して行く
こととする。

●22年度会計監査実施

4月19日(火) 19:00～21:00
エルプラザ2Fフリースペース
担当/西川会計監査(4名)

平成22年度普通会計決算、平成22
年度特別会計決算の会計監査を実
施する。

●総会議案説明

4月21日(木) 17:15～17:45
札幌市役所10F市長室

担当/武藤事務局長(3名)

会長に対する総会議案の説明を行
う。

●総会議案印刷、製本作業

4月22日(火) 9:00～10:30
エルプラザ2Fフリースペース
担当/武藤事務局長(6名)

総会議案の印刷、製本作業を行う。

●さぼりとほっと基金助成第二次 審査公開プレゼンテーション

4月23日(土) 12:15～12:25
エルプラザ2F会議室1・2号
会議室

担当/武藤事務局長

札幌市さぼりとほっと基金助成第
二次審査公開プレゼンテーション
に参加、音楽活動する中学生及び
外国人留学生の招待について説明
する。

●平成23年度札幌くらぶ総会・札 響くらぶコンサート説明会

4月23日(土) 13:00～14:30
札幌コンサートホール2F大会
議室

担当/西川副会長、西川会計監
査、武藤事務局長(43名)

平成23年度札幌くらぶ総会は会長
のあいさつ、議案審議などを行い、
終了後直ちに札幌くらぶコンサー
ト説明会を実施する。

ト説明会を実施する。

●札幌くらぶ総会交流会(第1回)

4月23日(土) 17:30～19:00
札幌コンサートホール2F大会
議室

担当/武藤事務局長(45名)

23年度第1回となる交流会を実施、
西村専務、小峰首席ヴィオラ奏者、
遠藤ヴィオラ奏者ほか参加、リ
サイクルのお知らせや新入会会員
の紹介などを行う。

●仙台フィル支援義援金送金

5月6日(金)
札幌事務局長
担当/中居普通会計担当

5月2日札幌と送金方法などの打
合せを経て、札幌と連名で仙台
フィルの口座に札幌に送金依頼す
る。総額1,133,470円(うち
札幌くらぶ482,000円)
となる。

●会報「札幌くらぶ」第54号ほか 発送作業

5月9日(月) 14:00～17:45
札幌コンサートホール1階第1
会議室

担当/武藤事務局長

会報「札幌くらぶ」第54号、23年

度年会費納入依頼、札幌くらぶコ
ンサートチラシ及びチケット申込
はがき、PMFほかのチラシを同
封する。

●第2回札幌くらぶ運営会議

5月9日(月) 18:00～21:00
札幌コンサートホール1階第1
会議室

担当/武藤事務局長(9名)

23年度札幌くらぶ活動計画の実施
方法の検討及び会報第55号の編集
企画について協議する。

●コンサートのお知らせ

5月25日(水)
担当/武藤事務局長
土田英順チェロ・リサイタル(6
月3日)、小峰航一ヴィオラ・リ
サイタル(6月12日)を札幌くら
ぶMLでお知らせする。

●第6回札幌くらぶコンサート実 行委員会

6月1日(水) 18:00～20:00
札幌コンサートホール1階第1
会議室

担当/西川副会長(11名)

チケットの予約申込状況、中学生
招待、留学生招待、協賛取組状況
助成金決定状況などの報告、入会
・チケット優待の案内などのチラ
シの検討を行う。

●札幌くらぶコンサートチラシ等

度年会費納入依頼、札幌くらぶコ
ンサートチラシ及びチケット申込
はがき、PMFほかのチラシを同
封する。

会報織込作業
6月9日(木) 14:00～17:00
札幌コンサートホール1階第1
会議室

担当/佐藤運営スタッフ(8名)

第539回定期演奏会プログラム
に折り込む会報54号に札幌くらぶ
コンサートチラシ及び10時からエ
ルプラザで印刷した入会案内チラ
シの折り込みを行う。

●第7回札幌くらぶコンサート実 行委員会

6月13日(月) 18:00～20:30
札幌コンサートホール1階第2
会議室

担当/西川副会長(11名)

チケットの予約申込状況、中学生
招待、留学生招待、協賛取組状況な
ど

招待、留学生招待、協賛取組状況
などの報告、検討を行う。その他
JOFCTツアー日程変更、西村専
務送別会について報告する。

●第3回札幌くらぶ運営会議・第 8回札幌くらぶコンサート実行 委員会合同会議

6月27日(月) 18:00～20:30
エルプラザ4F男女参画研究室
4番

担当/西川副会長(12名)

会報55号の入稿状況並びに督促、
JOFCTツアー、静岡文化芸術大
学の取材対応について協議及びチ
ケットの予約申込状況、中学生及
び留学生招待、協賛取組状況など
の報告、検討する。

札幌くらぶML登録アドレス募集

札幌くらぶ会員専用メーリングリスト (ML) へのメールア
ドレスの登録を募集しています。

MLは、札幌くらぶの「おしゃべり ROOM」などの電子掲
示板のような Web 形式と違い、メールアドレスを登録しないと
利用できないようになっている会員専用の電子メールですの
で、迷惑メールなどが送信されることはありません、安全なメー
ルの利用方法ですので、安心してご利用ください。

札幌くらぶでは演奏会のお知らせなど、この ML を会員同
士の情報交換、交流の場として多くの会員の方々に活発に利用
いただきたいと思います。

MLに、新たにメールアドレスを登録される会員を募集いた
します。次のメールアドレスに「MLに登録希望」と題名
を入力し、通信欄に会員番号、氏名を入力して送信してく
ださい。

info@sakkyoclub.net

受信後、MLに登録し、利用方法を返信いたします。

多くの会員の方々が登録されるようお願い申し上げます。

また、入会時に会員名簿に登録させていただきましたメール
アドレスは、自動的に ML に登録させていただきます。

札響くらぶ会員証の特典

●札幌交響楽団のチケット

札幌交響楽団主催の定期演奏会、名曲シリーズ（S席のみ）のチケットが10%割引で、次のチケット取扱所で一般発売日より購入できます。購入される際に会員証を提示してください。

- ・キタラチケットセンター
- ・大丸プレイガイド
- ・道新プレイガイド
- ・4プラプレイガイド

（平成23年度の価格）

- ・定期演奏会（カッコ内は定価、学生席の割引はありません。）
- S席 4、500円
- (5、000円)

A席 4、050円

(4、500円)

B席 3、600円

(4、000円)

C席 2、700円

(3、000円)

・名曲シリーズ（カッコ内は定価、学生席の割引はありません。）

A席、学生席の割引はありません。

S席 3、600円

(4、000円)

●テラスレストラン・キタラ

店内での飲食が10%割引となります。ただし、一部の商品を除くことがあります。お支払いの際に会員証を提示してください。

●キクヤ楽器店（狸小路3丁目）

全商品が店内に限り、10%割引となります。お支払いの際に会員証を提示してください。キタラ等の出店では適用されません。また、楽器を購入される場合は係員に相談ください。

●ダイニング「イル・ネージュ」

（北区北12条西1丁目北12条パークマンション1F）
札響くらぶと申し出て会員証を提示してください。シェフからの素敵な特典があります。
ご予約・お問合せは、011-717-2555まで。

平成23年度の年会費の納入をお願いします

平成23年度の年会費の納入のお願いを5月のゴールデンウィーク明けに、会報と一緒に口座振替をご利用の会員の方を除く会員の方々に郵便振替用紙を送りいたしました。

年会費は、札幌くらぶの運営経費と楽譜支援金にあてられておりますので、お振り込みをお忘れの方はお近くの郵便局から至急お振り込みをお願いいたします。

また、年会費納入の際に、任意での追加楽譜支援金も併せて募集しておりますので、ご検討をよろしくお願いいたします。

年会費の納入は、日ごろご利用しております金融機関の預金口座からのご振替が便利です。追加額支援金、札幌くらぶコンサートチケット代などのお支払いも口座振替でできますので、ぜひご利用ください。手続きをご希望の方は、電話、ファックス（011-563-1640）、メール（info@sakkyokuhai.net）で、会員番号、お名前を申し出てお申込みください。口座振替依頼書を送りいたします。

上記のほかに、定期演奏会、名曲シリーズの会場の「札幌くらぶサービスカウンター」で、現金でのお支払いも受け付けておりますので、お気軽にお申し付けください。（担当：事務局長 武藤義典）

からの自動振替が便利です。追加額支援金、札幌くらぶコンサートチケット代などのお支払いも口座振替でできますので、ぜひご利用ください。手続きをご希望の方は、電話、ファックス（011-563-1640）、メール（info@sakkyokuhai.net）で、会員番号、お名前を申し出てお申込みください。口座振替依頼書を送りいたします。

編集後記

◆「札響と遊ぶ」は札響くらぶの威信を懸けたイベントです。チケット販売も佳境に入りました。身近な友人・知人を誘いましょう。（里）

◆先日の名曲シリーズで改めて思いました。やっぱりパーンスタインはスゴイ！（華）

◆突然多忙となりレスピーギもタンゲルウッドも聴けませんでした、あー悲しい。（知）

◆3/11宮城県名取市で被災し心労を負ったが、札響はいつも私を癒してくれる存在だ。（深井）

◆札幌くらぶコンサート苦戦中！現在までチラシ差し込み2万枚、チケット一般販売に効果あれ！（ヨシ）

◆熱中症で冷やしても直らないときは42度位の半身浴で汗を出すというですよ。（響）

◆今号も記事が多くて6ページ増の14頁となった。会員スタッフの皆さんの関心が高まってきて、投稿が多くなってきたのはうれしいこと。ただし、予算は各号8ページしか見ていないので心配です。（武）

花束贈呈

6月末で退団され、7月からパーソナルマネージャーに就任したオーボエ奏者高井明氏に6月11日の定期演奏会で、同じく6月末で退団されたヴィオラ首席奏者小峰航一氏に6月25日の名曲シリーズで花束を贈りました。



ヴィオラ首席奏者 小峰航一氏



オーボエ奏者 高井 明氏

意見・感想をお寄せ下さい

会報に掲載する思い出、感想、随筆やご意見・ご要望など会員の皆さんからの投稿をお待ちしています。

交流会や札幌演奏会の感想、クラシック音楽に関する事、この会報に関する事など特に内容は問いません。

投稿は、ハガキ、封書又はメールで、住所・氏名・会員番号（以

上必須事項）・電話番号等連絡先を添えて、「札幌くらぶ事務局」宛お送りください。

匿名希望の方は、「匿名希望」又は「ペンネーム」をお書きください。（あて先は1ページ目のタイトルの欄にあります。）

また、「第9回札幌くらぶコンサート」札響と遊ぶ」についてのご意見もお寄せください。

また、「第9回札幌くらぶコンサート」札響と遊ぶ」についてのご意見もお寄せください。

訂正

第54号7ページに掲載された「朝日ジルベスターコンサート」は「HTB・朝日ジルベスターコンサート」が正しいコンサートの名称ですので訂正いたします。